発行日：2015年3月1日発行　編集：医療法人永仁会　広報部会

発行　医療法人 永仁会

永仁会だより

号外

住所 ：大崎市古川旭2丁目5－1
TEL ：0229－22－0063
ホームページアドレス　http://www.eijinkai-hp.or.jp/

永仁会病院では日頃から病院スタッフの知識の研鑽、業務の質の向上に努めています。そしてその成果の発表会を年1回、院内で行っています。2014年、当院スタッフの仕事の軌跡をご紹介します。

第21回NST(栄養サポートチーム)報告会　2014.12.13

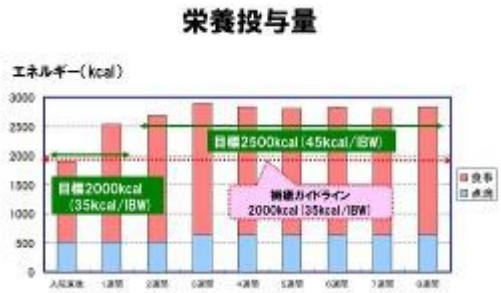
当院は正しい栄養管理が病気の治癒力を高める事に早くから注目し、NST(栄養サポートチーム)を職員で構成し栄養管理につとめています。 毎年「NSTまとめの会」と題して、各部署1年間の業務の成果を発表し、今後の更なる発展のために病院スタッフ全員で勉強する機会を設けています。私達も普段の業務で悩み、反省し、そして患者様の快復に喜びを感じる。そんな1年間の集大成を是非見てください。

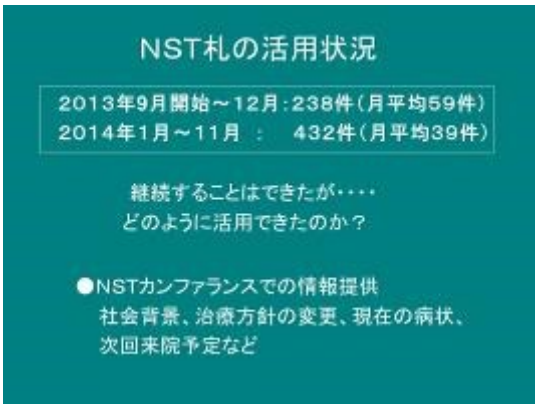
「統合失調症を基礎疾患に持つ重篤な褥瘡の１例（１報）」
看護部（２階病棟）　齋藤洋子

重篤な褥瘡患者に対して、VAC療法を試みた。VAC療法とは、陰圧閉鎖療法と呼ばれ創傷を密閉し持続的陰圧を加える事により創傷治癒を促進させる物理療法である。VAC療法と共に、体圧測定と徐圧、局所ケア、栄養面のアシスト、筋力低下予防、離床、精神面での関わりなど看護師の役割は大きかった。限られた期間内で治療を行う為には早期にアセスメントを行い、多職種がチームでケアを行うことが重要である。

「統合失調症を基礎疾患に持つ重篤な褥瘡の１例（２報）」
管理栄養士（消化器病棟）　佐藤文美

重篤な褥瘡に対して、褥瘡ガイドラインで示されている目標量を上回る栄養投与量を、腎機能、血糖など全身状態に注意し摂取してもらった。本人の嗜好と合わせて栄養補助食品を利用し、目標量を達成できたことで褥瘡の改善に貢献できたと思われる。この患者様は転院となったが、転院先の施設へ栄養管理の情報を送り1ヶ月後も栄養状態は維持できていた。

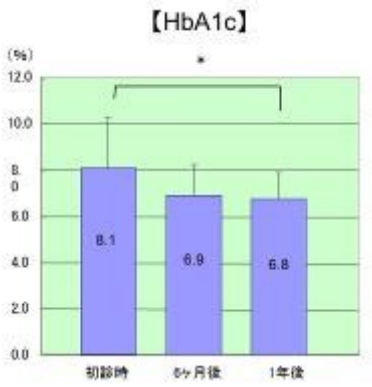




「消化器外来NSTの次のステップ」
看護師（消化器外来）　佐藤聡子

外来では、低栄養状態・栄養状態低下の患者様を早期に発見・治療・予防することが重要と考える。実際この1年、早期発見のための活動を行い、栄養介入率は高まったが、業務上の問題点も見えてきた。データの管理も含め、次のステップに踏み出すために多職種と連携を取りながら来年も活動していく。

発行日：2015年3月1日発行　編集：医療法人永仁会　広報部会



「糖尿病療養経過シートを活用しての臨床効果」

管理栄養士（内科外来）石川朋美

糖尿病内科外来では時系列的に患者様のデータが確認できる「糖尿病療養経過シート」活用している。今回、初診から1年を経過した患者の臨床効果について検討した。継続的な栄養介入を行った結果、体脂肪量・内臓脂肪量共に有意に減少した。HbA1cは平均8.1%から6.8%に改善した。

「超音波検査が早期に有用であった大腸癌の１症例」

臨床検査技師　柏崎有紀

超音波検査で大腸癌を疑う所見があったため、早めの精査を促し、大腸カメラ、PET-CTが行われ、大腸癌と確定した。早い診断であったため、栄養状態良好のまま手術に望み、術後の経過は良好。体重減少も少量にとどまった。また、癌の深達度も浅く、転移もなかった。正しい臨床検査が早期診断・早期治療につながった症例である。

「透析室の嚥下障害に対する取り組みについて」

看護師（腎センター）　佐々木恵美子

現在、透析室では80歳以上の超高齢者を10名抱えている。今回摂食嚥下リハビリテーション学会より「摂食嚥下障害評価表」を引用し、看護師と栄養士がペアとなり、聞き取りや観察を行いながら、嚥下状態の把握を行った。その結果、年齢や義歯の不具合、歯の欠損などが高リスクであり、義歯の治療を促し咬合力が改善させた例があった。今後も姿勢なども含め定期的に評価していく。

第22回腎センター研究発表会　*2014.11.30*

この会は、病院スタッフや透析治療に携わる医療機器・医薬品メーカーの皆さんが最新の情報や知見を一緒に勉強するために前腎センター長の石崎允先生が企画されたものです。今回は、医療機器・薬品メーカーからは11社、看護部・臨床工学科・栄養管理科から各1題の発表がありました。また、腎センター長の松永智仁先生からは「この1年を振り返って」という演題で講演がありました。慢性腎臓病や透析治療に関わる幅広い知識を勉強できる良い機会となっています。今後も石崎先生の思いを引き継いで、より良い透析ができるようスタッフ一同努めていきたいと思います。

「透析液作成の問題点」　臨床工学科　佐藤政範（後列右）
「リンコントロールの現状と継続した栄養指導の効果」栄養管理科　山村静夏（前列右）
「透析室の嚥下障害に対する取り組みについて」　看護師　佐々木恵美子（前列中央）